



12.5 (1) SU1 以前の Cisco Unified Communications Manager バージョンのヘッドセット管理

- [Cisco Unified Communications Managerの旧バージョンでのヘッドセット管理 \(1 ページ\)](#)
- [デフォルトのヘッドセット構成ファイルのダウンロード \(3 ページ\)](#)
- [デフォルトのヘッドセット構成ファイルの変更 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager にデフォルト構成ファイルをインストールする \(6 ページ\)](#)
- [Cisco TFTP サーバの再起動 \(7 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Managerの旧バージョンでのヘッドセット管理

12.5(1)SU1 以前のバージョンの Cisco Unified Communications Manager を使用する場合、オンプレミスの電話機を使用して Cisco ヘッドセット設定をリモートで構成できます。

Cisco Unified Communications Manager バージョン 10.5 (2)、11.0 (1)、11.5 (1)、12.0 (1)、および 12.5 (1) でリモートヘッドセット構成を行うには、[Cisco ソフトウェアダウンロード web サイト](#) からファイルをダウンロードし、ファイルを編集し、Cisco Unified Communications Manager TFTP サーバにファイルをアップロードする必要があります。ファイルは JavaScript オブジェクト通知 (JSON) ファイルです。更新されたヘッドセット構成は10~30 分の時間枠でエンタープライズヘッドセットに適用され、TFTP サーバのトラフィックバックログを回避することができます。



(注) Cisco Unified Communications Manager 管理バージョン 11.5 (1) SU7 を使用して、ヘッドセットを管理し構成することができます。

JSON ファイルを扱う際には、次の点に注意してください。

- コードに括弧が抜けている場合、設定は適用されません。JSON Formatter などのオンラインツールを使用して、フォーマットを確認してください。
- **updatedTime** 設定を現在のエポック時間に設定しない場合は、設定が適用されません。もしくは、**updatedTime** 値を 1 増やし、旧バージョンよりも大きくすることもできます。
- パラメータ名を変更しないでください。設定が適用されません。

TFTP サービスの詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* および *IM* およびプレゼンスサービスのアドミニストレーションガイドの「デバイスファームウェア管理」の章を参照してください。

defaultheadsetconfig.json ファイルを適用する前に、電話機を最新のファームウェアリリースにアップグレードしてください。次の表では、JSON ファイルを使用して調整できるデフォルト設定を説明します。

表 1: Cisco ヘッドセット 500 シリーズパラメータとデフォルト設定

パラメータ	範囲	デフォルト	注記
スピーカーの音量	0~15	7	ヘッドセットのサウンドレベルを制御します。0は低音量、15が最大音量です。ヘッドセットが導入されているオフィス環境に応じて、この設定を別の方法で構成することができます。
マイクロフォンゲイン	0 (オフ) ~4 (高)	2	ゲインは、通話中にユーザが相手にどの程度の音量で声を届けるかを制御します。0は音を出さず、4は最大音量を使用することになります。この設定は、導入されたヘッドセットの周辺ノイズの発生量に応じて構成できます。
側音	0 (オフ) ~3 (高)	1	ヘッドセットを通してユーザが聞くことができる自声の音量を制御します。0は側音をオフにします。3の場合、ヘッドセットマイクからより多くの音が返ってくることを意味します。
イコライザ	0 (最も暖かい) ~6 (最も明るい)	3	電話機がチューニングとして認識するイコライザーを制御します。0に設定すると、ユーザはヘッドセットで低音が聞きやすくなり、6を設定すると高音が聞きやすくなります。
オーディオ帯域幅	0 (狭帯域)、1 (広帯域)	0	DECT 帯域幅の制御帯域幅を狭く設定すると、標準ベースヘッドセットとマルチベースヘッドセットは DECT コーデック G.726 に制限されます。ワイヤレスヘッドセットを高密度な DECT 環境で使用する場合は、オーディオ帯域幅を狭帯域に設定してください。

パラメータ	範囲	デフォルト	注記
Bluetooth	0 (オン)、1 (オフ)	0	Cisco ヘッドセット 561 および 562 (マルチベース付き) での Bluetooth の使用を制御します。このパラメータが変更されると、ベースとペアリングされたデバイスとの接続が失われます。 情報セキュリティが重視されている環境でユーザーが操作している場合、Bluetooth を無効にすることができます。
DECT ラジオレンジ	0 (オートレンジ)、1 (短距離)、2 (中距離)	2	DECT レンジを制御します。デフォルトでは、標準ベースとマルチベースの DECT レンジは理想的な条件が揃うと、330 フィート (100 m) 以上になります。DECT 無線レンジを短く設定すると、ヘッドセットベースの消費電力は少なくなりますが、ユーザーは通話中、ベースから遠くへ離れることはできません。
会議	0 (無効)、1 (有効)	1	Cisco ヘッドセット 560 シリーズでの会議機能の使用を制御します。会議機能では、最大 3 台のゲスト用ヘッドセットを同一ベースに一度にペアリングできます。 会議機能の詳細については、Cisco ヘッドセット 500 シリーズユーザガイドを参照してください。

デフォルトのヘッドセット構成ファイルのダウンロード

ヘッドセットパラメータをリモートで構成する前に、最新の JavaScript オブジェクト表記 (JSON) サンプルファイルをダウンロードする必要があります。

手順

- ステップ 1 次の URL にアクセスしてください : <https://software.cisco.com/download/home/286320550>
- ステップ 2 Choose **Headsets 500** シリーズ
- ステップ 3 ヘッドセットシリーズを選択してください。
- ステップ 4 リリースフォルダを選択して、zip ファイルを選択します。
- ステップ 5 [ダウンロード (Download)] または [カートに追加 (Add to cart)] ボタンをクリックして、プロンプトの指示に従います。

ステップ6 PC のディレクトリにファイルを解凍します。

次のタスク

[デフォルトのヘッドセット構成ファイルの変更 \(4 ページ\)](#)

デフォルトのヘッドセット構成ファイルの変更

JavaScript Object Notation (JSON) ファイルを扱う際は、次の点に注意してください。

- コードに括弧が抜けている場合、設定は適用されません。JSON Formatter などのオンラインツールを使用して、フォーマットを確認してください。
- **UpdatedTime** の設定を現在のエポック時間に設定するか、または設定が適用されません。
- **firmwareName** が最新バージョンであるかを確認してください。最新でない場合は構成が適用されません。
- パラメータ名を変更しないでください。設定が適用されません。

手順

ステップ1 defaultheadsetconfig.json ファイルをテキストエディタで開きます。

ステップ2 変更する updatedTime とヘッドセットパラメータ値を編集します。

スクリプトのサンプルを次に示します。このスクリプトは参考用としてのみ提供されます。ヘッドセットパラメータを構成する際のガイドとして使用してください。ファームウェアロードに含まれている JSON ファイルを使用します。

```
{
  "headsetConfig": {
    "templateConfiguration": {
      "configTemplateVersion": "1",
      "updatedTime": 1537299896,
      "reportId": 3,
      "modelSpecificSettings": [
        {
          "modelSeries": "530",
          "models": [
            "520",
            "521",
            "522",
            "530",
            "531",
            "532"
          ]
        }
      ],
      "modelFirmware": [
        {
          "firmwareName": "LATEST",
          "latest": true,
          "firmwareParams": [
```

```
{
  "name": "Speaker Volume",
  "access": "Both",
  "usageId": 32,
  "value": 7
},
{
  "name": "Microphone Gain",
  "access": "Both",
  "usageId": 33,
  "value": 2
},
{
  "name": "Sidetone",
  "access": "Both",
  "usageId": 34,
  "value": 1
},
{
  "name": "Equalizer",
  "access": "Both",
  "usageId": 35,
  "value": 3
}
]
}
},
{
  "modelSeries": "560",
  "models": [
    "560",
    "561",
    "562"
  ],
  "modelFirmware": [
    {
      "firmwareName": "LATEST",
      "latest": true,
      "firmwareParams": [
        {
          "name": "Speaker Volume",
          "access": "Both",
          "usageId": 32,
          "value": 7
        },
        {
          "name": "Microphone Gain",
          "access": "Both",
          "usageId": 33,
          "value": 2
        },
        {
          "name": "Sidetone",
          "access": "Both",
          "usageId": 34,
          "value": 1
        },
        {
          "name": "Equalizer",
          "access": "Both",
          "usageId": 35,
          "value": 3
        }
      ]
    }
  ]
}
```


- ステップ 3 [ファイルを選択 (Choose File)] を選択して、defaultheadsetconfig.json ファイルに移動します。
- ステップ 4 [ファイルをアップロード (Upload File)] を選択します。
- ステップ 5 [閉じる (Close)] をクリックします。
-

Cisco TFTP サーバの再起動

Defaultheadsetconfig.json ファイルを TFTP ディレクトリにアップロードした後、Cisco TFTP サーバを再起動し、電話機をリセットします。約 10~15 分後に、ダウンロードプロセスが開始され、新しい構成がヘッドセットに適用されます。設定が適用されるまでに、さらに 10~30 分かかります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability にログインして、[ツール (Tools)] > [コントロールセンタ - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 2 サーバ (Server) ドロップダウンリストボックスから、Cisco TFTP サービスが実行されているサーバを選択します。
- ステップ 3 Cisco TFTP サービスに対応するラジオボタンをクリックします。
- ステップ 4 再起動 (Restart) をクリックします。
-

